

平成 27 年度 第 59 回 ゆりかご幼稚園
運動会のお知らせ

日時： 10 月 12 日(月) 9 時開会

場所： 京町小学校

※雨天決行(雨天時：京町小学校 アリーナ体育館)
(京町循環・臨港バス『一ノ辻』下車 徒歩 3 分)

いよいよ 2 学期となります。

夏休みがおわり、お子様方の大きな成長を感じます。

中央公園において、練習が始まります。

お母さま方のご協力どうぞ宜しくお願い致します。

日一日と意欲が高まり、当日は、感動の頂点を迎えることが
できますようお子様方と、力いっぱい頑張ります。

みなさまの
ご来場を心より
お待ちしております



平成 27 年度 第 14 回母親大学 修了式

とき： 平成 27 年度 9 月 19 日(土) 10:00～

7 回にわたって開催されました母親大学は、育児の大切さと心地良さを感じとっていただけたと
思われます。熱心な皆様により今後の教育活動が益々ゆたかなものとなりますよう、真剣に
取り組んで参りたいと思います。



(子ども達の集中するすがた)

こどもはしあわせて いつも手で何か しているのです

マリア・マンテッソーリ より

第41回 林間学校のみどり

2015年7月22日～24日までの2泊3日の林間学校は、大きな事故や怪我もなく、無事にやりとげることができました。これも、ご家族の皆様のご理解とご協力があったからこそと感謝しています。

大切なお子様をお預けいただきまして、ありがとうございました。
林間学校のご報告をさせていただきます。



宇宙ミュージアム テンQ

今年度、箱根の大涌谷の噴火が心配されていました。しかし、子ども達も博物館を楽しみにしていましたので東京ドームシティ前にある『宇宙ミュージアム テンQ』に行きました。ここでは、宇宙のことについて文章や展示だけでなく、実際に体験して宇宙について学ぶことができるアトラクションがたくさんありました。お友達と協力してボールを入れる『アストロボール』では、何度もチャレンジして「がんばれー！！できた。やったね！！」とお互いに応援して力を合わせていました。

楽しむ中でも展示物の宇宙服を見て「あっ！僕だ！！」と宇宙への思いや憧れをもっているなど宇宙についてさらに興味・関心を深める体験となりました♪

そして、お昼ご飯は移動のバスの中となってしまうりましたが、お母様方が心を込めて作ってくださったお弁当を前にお家から離れたばかりの子ども達もホッと気持ちを落ち着ける大切な時間となりました。

「お手紙だ！」と子ども達が何度も何度も繰り返し読んでお母様の愛情を感じ、美味しいお弁当を全員がピカピカに完食して1日頑張るエネルギーになっていたのを感じました。



色々な型の葉を採取しました

きらら（自然観察・クラフト作り）

はたおりをして
小さなマットを作りました



木の実でクラフトづくり
りすができたよ！

2日目の朝食を食べた後にきららに向かい、自然観察・クラフト体験をしてきました。りす・ふくろうのクラフト・機織りそれぞれグループにわかれて、最初にクラフト作りをしました。作業する前に、各グループの先生によるグルーガン(接着剤)の提供をしました。子ども達は、やりたい気持ちではありましたが、真剣に話を聞いていました。作業が始まると、「次はどうするの？」と真剣に取り組み、出来上がってくるにつれて笑顔になり楽しそうな姿がみられました。グルーガンを気を付けて使うよう心がけ「お兄ちゃんがやけどしたから気を付けろって言った。」とアドバイスを思い出して怪我することなく活動できました。機織りのお友達は、自分の好きな色を選んで、先生の話をよく聞いて作業をしていました。両手・両足を使い、難しい作業に涙が出たお友達もいましたが、最後まで諦めずに作品を完成させることができました。

自然観察では、あいにくの雨の中でしたが、阿部先生と一緒に公園内を散策しました。阿部先生が色々な葉の説明をしてくださり、子どもたちは興味津々にお話を聞いていました。子ども達が作った『葉の筆筒とカード』をもって「これは、たまごけいですか？」など質問したり、自分達が学んできたことを発揮して楽しく過ごすことが出来ました。

テーブルマナー



ナイフとフォークがとてもすてきです

林間学校の楽しみだった『テーブルマナー』。事前に1人一人がバナナをナイフとフォークを使って切り、練習してきました。1日目の楽しみの夕食では、ハンバーグや野菜が出てきてナイフとフォークを使いながら「美味しい！！」と食べていました。飲み物を飲んだり、食べ終わった後にはきちんと置くことが出来ました。

普段、ゆっくり食事をして残しているお友達も最後まで一生懸命食べていました。

1人ひとりが、自分のペースで食事を楽しみながらも食べ物大切に食べる姿勢が感じられました。

8・9月よみきかせ絵本

3階の踊場にて
毎月、絵本を展示して
おります。
手に取ってお子様と
お楽しみください。



大型絵本
「もりのかくれんぼう」

作： 末吉 暁子
絵： 林 明子

「ふきまんぶく」
「ぼくはあるいたまっすぐまっすぐ」
「ちいさなヒッポ」
「三びきのやぎのがらがらどん」
「バーバパパたびにでる」
「おじいちゃん」
「ティラノサウルス」
「ステゴサウルス」
「おじいちゃんが きたひから」
「おじいさんならできる」
「ジオジオのかんむり」
「おじいさんの小さな庭」
「おじいちゃんだいすき」
「おばあちゃんとわたし」
「おおかみと七匹のこやぎ」
「しろいうさぎとくろいうさぎ」
「もりのなか」
「よるのよちえん」
「ちいさいおうち」
「めっきらもつきらどおんどん」
「わにわにのおふる」

文・絵 田島征三
作 マーガレット ワイズ ブラウン 絵 林 明子
作 マーシャ=ブラウン 訳 うちだりさこ
訳 マーシャ・ブラウン 絵 せた ていじ
作 アネット=チゾン/タラス=テイラー 訳 やました はるお
作 ジョン・バーニンガム 訳 谷川俊太郎
文 アンジェラ・シーハン 絵 ジョージ・トンプリソン 翻訳 金光崇子
文 アンジェラ・シーハン 絵 ジョン・フランシス 翻訳 若林 千鶴子
作 ジュディス・ケイスリー 訳 あき よしこ
作・絵 フィービ・ギルマン 訳 芦田ルリ
作 岸田裕子 絵 中谷千代子
文 シャイドル 訳 ささき たづこ 絵 バーナデット
作 W.ハラント 絵 C.O.ディモウ 訳 若林ひとみ
作 シャーロット・ゾロトウ 訳 掛川恭子
グリム童話 絵 フェリクス・ホフマン 訳 せた ていじ
文・絵 ガース・ウィリアムズ 訳 まつおか きょうこ
文・絵 マリー・ホール・エッツ 訳 まさき るりこ
文 谷川俊太郎 絵・写真 中辻悦子
分・絵バージニア・リー・バートン 訳 石井 桃子
作 長谷川 摂子 絵 降矢 なな
文 小風 さち 絵 山口 マオ

わたしの絵本論～絵本は心と心の架け橋～

園長 荒井 晶子

この記事は、平成5年7月号の川崎幼稚園協会の新聞に掲載されたものです。『シャーロット・ゾロトウ』を中心に述べています。

今から22年前のことですが、ゆりかご幼稚園の絵本活動は、もうこの次元にありました。

絵本への深い読みとりによって、子どもの心の成長は大変大きなものとなりました。

(次ページにつづく)

荒井 晶子

絵本は心と心のかけ橋



ゆりかご幼稚園園長・荒井品子

感動を伝えあう世界

「あなたはだれ?」、アメリカの代表的絵本作家、シャーロット・ソロトウ(注1)の、この絵本を開いてみましょう。「あかちゃんがつまれました、なまめはヒリーですでもかあさんはヒリーですばないんですよ」といったページからは、ウエーツ、ウエーツとなぐり、あかちゃんの下を「ちいさいあひるさん」ところよびます。…でも、あなたはだれ?と、問いかけるのです。ちいさいはとさん、ちいさいかえるさん、ちいさいみつばちさん…と、次々とあかちゃんの特徴をいろいろな生き物のなきごえや様子でよびかけてゆきます。

そしておわりのページで、「あるひのことです。あかちゃんはどうなごつづつのことにも、どんなむしのことにもできないこと、にんげんのことでもなければできないことをしました…(中略)」あかちゃんがじぶんのあしでたっていたのです。あかちゃんかあさんをみつめました。それから、ちからいっぱいよびました。ムムム…ムアママ」そして、最後のページとなります。

おかあさんがしっかりとこどもをたぎしめている場面で、「かあさんはおもわずあかちゃんをたぎしめました。そして、あかちゃんの名まえをよびました「ヒリー」。(中略)あなたはせかいにたったひとり、ヒリー!」この絵本は、新しい生命が誕生して、ひとりの人間として人格が確立してゆく過程をゆつたりと、温かな視線をもつて描いています。即ち「ほくのなまめはヒリー」となるのです。やがて、幼児から少年や少女になり、大人になっていきます。その節目で、「ヒト」はそれまでの自分にさよならをして、あたらしい自分に成長していくのです。

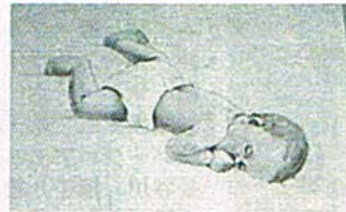
それが、シャーロット・ソロトウの絵本創作のモチーフであって、それぞれにすばらしいドラマがあるのです。この他に、「あたらしいほく」、「おかあさん」などのようなすばらしい作品があります。シャーロット・ソロトウは、「世界各国の文化が異なっていることは、各々の感情の表現の仕方ばかりがっている。しかし、うれしいこと、悲しいこと、楽しいこと、つらいことをうけとめる人のところにちがいはありません」といっています。絵本の世界は、心と心を伝えあい、響かせあうことのできる世界であります。



…あなたはせかいにたったひとりヒリー!



「ちいさいみつばちさん」…でもあなたはだれ?



「ちいさいかえるちゃん」…でもあなたはだれ?



「あなたはだれ?」シャーロット・ソロトウ文/ライオン・スミヤカ絵/みらいなな訳/童話屋発行

子どもの本に国境はない

世界人をめざす絵本芸術

国際化とは、外国語が話せるようになるというのではなく、相互の文化や風俗習慣を超えて、互いに理解しあえることであると思つたのです。世界的名著といわれている「本子ども・大人」の中で、ポール・アザール(注2)は、次のように述べています。

「子どもの本は、東から西から、北から南からやつてくる。それらを自分の最もすぐれた本と同じように、時にはそれ以上にすばらしいと思つて読まないような子どもはひとりもいないだろう。それは子どもたちの社会は寛容で、そこには国境というものがないのだ。(中略)子どもたちは、自分の選択に忠実である。彼らの集団意識は、大人たちよりも、もっと敏感で、もっと敏感だ。なぜなら、彼らは頭でっかちな批評によつてことが決めるのではなく、本能によつて黒白をきめるからである。この子どもたちの社会では、人種の差別や人間の優劣などからくるうめほれもない。(略)」

近頃の書店や図書館の絵本の棚をのぞいてみましょう。アメリカ、イギリス、スイス、スウェーデン…の絵本たちが、わが国の絵本といっしょになかよくなっています。このようにして、絵本体験をおとす、子どもの世界連邦が成立し、やがて、平和をめざす人類を意識することになります。お気づきの方も多いかと思いますが、絵本の世界は、文学でも美術でもない、新しい芸術としての児童文化が、ここ数十年の間に築きあげてきた世界であります。近年、アメリカでは絵本芸術が驚異的発展をとげたのですが、その生みの親ともいえるソロトウ女史の活躍は偉大なものがありました。

絵本は、母と子がひとつになる最も重要なかけ橋となるものです。心をこめて、ゆつくりと、お母さまのおひきにて読んであげてください。人と人、森羅万象、世界と世界をつなぐかけ橋として、平和を実現する基盤となると思つたのです。

シャーロット・ソロトウの絵本



「あたらしいほく」シャーロット・ソロトウ文/スミヤカ絵/みらいなな訳/童話屋発行



「おかあさん」シャーロット・ソロトウ文/アノク・ローベル絵/みらいなな訳/童話屋発行

(注1) シャーロット・ソロトウ Charlotte Solotow (1915-) ニューヨーク出版社ハーバー・アンド・ローの編集長、副社長を兼任。一方、これまでに30人以上の画家と七五冊にのぼる絵本を創作、絵本作家としてもすぐれた資質にめぐまれる。

(注2) ポール・アザール Paul Hazard (1878-1944) フランスの文学史家。本・子ども・大人」紀伊國屋書店発行。矢崎源九郎訳。